D 16

女子短大生の衣生活の意識傾向に関する研究
－　その２　生活の中の関心度と衣生活の意識について　－

梅花短大　家本　修　三重短大　○　伊藤　五子

目的：日常生活の興味・関心や衣生活の意識は、パーソナリティによって枠組みや方向付けがなされると考えられる。そこで、両者の関係を明らかにすることから、被服行動の理論化や要因が明らかになろう。本稿では、衣生活意識の傾向を探ることを目的とする。
方法：昭和６２年７月上旬に女子短大生 180名（ 18才～21才 ）を対象に質問紙調査法による集合調査を実施した。有効回答数は、177 名（98.3%）であった。主たる調査項目は、生活の中の関心、衣生活の意識に関する項目の５段階評価・態度とブランド商品の所持状況である。調査に前後して、被験者にはＹＧ性格検査を集団で実施してある。分析には、クロス分析、分散分析、Ｔ検定、因子分析、数量化Ⅱ類、数量化Ⅲ類の各手法を用いた。
結果：①「服装が生活のレベル」を表していると考え、「ＴＰＯに合わせた服装を」と考えている学生は、生活の興味・関心の項目の中で、「部屋を飾ること」とも関係する。
②「通学服にをスポーティな服」や「一般的な抵抗のない服」を肯定している人は、「スポーツに興味・関心」がある。③「服装で人の生活程度を判断する」割りには「目立たない服装を好み」「流行の服は安心」し「服には細心の注意」を払う学生は、「食べ歩き」に対しても関心を持っていると考えられる。また④「通学服にスポーティ」な服を好み、「周囲と同じような服装」を「高くてもブランドもの」をと考えている人は、「ヘヤースタイルに凝る傾向が伺える。⑤「来客には服装を替えてから」と考えて、「通学にタンクトップの着用」を肯定している学生は「ネックレスなどの装飾品」を多く持つ傾向がる。
以上のように、生活意識と衣生活意識には一定の関係が認められる。